

(県協働部署用) 協働事業評価・報告書

事業名	保育園等における食物アレルギー事故発生防止事業
県協働部署名	次世代育成課、私学振興課、がん・疾病対策課
団体名	NPO 法人ピアサポート F. A. cafe
事業期間	令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日

1 個別事業ごとの実施結果

事業 1	就学前の園児に食物アレルギーの学びの機会を提供する。患者本人には患者の自覚と理解を促し、友人らにはアレルギーへの関心と理解を促す。子どもたちへ働きかけることで、誤食事故の迅速な対応にもつなげる。
(1) 実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	<p>【実施状況】</p> <p>【4 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニター園アンケート分析を受け「第 40 回日本小児臨床アレルギー学会学術大会」抄録作成 <p>【5 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児食物アレルギー研修会(8/26)の開催手配のため私立幼稚園連合会と打合せ ・昨年度モニター園アンケート 32 件の結果から、紙芝居の構成、デザイン、付属品の検討 <p>【6 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居制作についてアドバイザー、イラストデザイナーと打合せ 7～9 月でイラスト作成依頼 <p>【7 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 40 回日本小児臨床アレルギー学会にて啓発教材の有用性について一般演題発表(大阪) ・栄養学科、社会学科の教員及び学生に紙芝居のアンケート調査 25 件 <p>【8 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園連合会と共催にて小児食物アレルギー研修会開催 参加者：77 名(申込 81 名、当日 1 名)、スタッフ:10 名 <p>【9 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業化に向け園児向け教材制作会社と打合せ <p>【10 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働課と配布園の選定調整、監修医による監修 <p>【12 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発教材を協力園 100 園に配布 <p>【1 月-2 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力園によるアンケート回答(2 月末時点 64 件回答) <p>【3 月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当課へ報告 <p>昨年度実施したモニター園アンケートの結果を踏まえて、年齢に合わせたわかりやすい言葉と食物アレルギーをイメージしやすい大きなイラストを示すことで、昨年度に比べ、クオリティが高く、分かりやすい構成となっていた。</p> <p>2 月末までに回答があった 64 件のアンケート結果では、絵本の内容への興味が、「とても興味を持った」、「まあまあ興味を持った」合わせて 100%となっていた。また、食物アレルギーが好き嫌いとは違うことの理解は「とても理解した」、「まあまあ理解した」が 97%と高く、当該事業が有意義なものであったと判断できる。</p>
(2) 目標の達成状況	<p>ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。 (100%)</p> <p>※1 年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。</p>

	イ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。 6 年度については事業計画通り、モニター園選定、教材配布、アンケート回収を行うことができた。
	ウ) この事業の課題と対応策 来年度も計画通り 100 園に紙芝居を届ける予定であるので、次世代育成課は 50 園の協力園の選定を行う。 協力園の選定に際しては、団体と協議し、最も効果的な方法を検討し、効果的なフィードバックが得られるように対応する。

(注) 個別事業が 2 つ以上ある場合は、上の表を複写して記入してください。

2 協働事業を継続する上での課題とその対応策

今年度得たアンケート結果をもとに紙芝居の改訂をさらに行い、より啓発が継続する仕組みづくりを検討する。来年度に各 100 園（次世代育成課 50 園）に教材を配布する予定だが、その配布方法や配布媒体、また今後の展開方法も団体と共に検討していきたい。

3 負担金事業終了後の当該協働事業の見通し

本事業で制作した啓発教材は全国の必要な団体や自治体に提供できるように有償事業化する。

現在、各自治体ではアレルギー対応研修開催時は成人対象の資料が多数提供されているが、園児に展開できるものがない。また、研修は講義形式が主体で、園内で活用するには教職員の工夫が必要である。そこで当事業の啓発教材とフォローアップ研修や出前授業を組み合わせ、研修パッケージとして展開する。

当会の活動のベースである無料患者相談会や患児ワークショップの開催と、全国 600 の食物アレルギー専門医所属の医療機関と連携して無償提供している食物アレルギーサインプレートに加え小児科でも配布を継続する。全国の患者の現状や課題を把握して、国や専門学会に患者視点からの提案を行い、各種課題の解決に貢献する。

神奈川県アレルギー疾患対策推進協議会の委員に就任したことから、事業終了後も県のアレルギー対策に関わっていく。

4 協働事業の評価 (はい・いいえ・どちらともいえない、に該当するものを残してください)

1 協働事業の成果		
(1)	協働することで、単独で事業を行うよりも効果やメリットがありましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	事業の受益者の満足を得ることができたと思いますか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	(2)で「はい」を選んだ場合、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを記入してください。 紙芝居活用後のフィードバックアンケートを実施した。	
(4)	協働事業の成果だと思えることがあれば記入してください。 2 月末までに回答があった 64 件のアンケート結果では、絵本の内容への興味が、「とても興味を持った」、「まあまあ興味を持った」合わせて 100%となっていた。また、食物アレルギーが好き嫌いとは違うことの理解は「とても理解した」、「まあまあ理解した」が 97%と高かった。	
2 協働事業の協議の状況		
<企画段階>		

(1)	事業計画や目標の立て方について、県と団体とは事前の調整や協議を十分行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	県と団体とは対等な立場で協議を行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	締結した協定書は事業を効果的に実施する上で適切でしたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
＜実施段階＞		
(1)	意思の疎通を円滑にし、事業の進捗状況を確認するため、県と団体とは節目ごとにメールや電話でのやりとりや定期的な協議を行いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	県（団体）の置かれている状況や立場についての理解に努めましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	必要な情報を県（団体）と共有することができましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(4)	協議についての課題を記入してください。	
3 協働事業の役割分担		
(1)	県（団体）との役割分担は適切でしたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	協働事業の実施にあたって、あらかじめ定められた役割を果たすことができましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	役割分担についての課題があると思われる場合は、記入してください。	
4 協働事業全体を通しての評価		
(1)	全体として、県と団体とは対等な立場で協働ができましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	この事業の課題を解決する上で、協働という手法は有効だと思いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	協働事業全体を通じて気づいた点があれば記入してください。 団体主導で事業を進めつつ、県の役割も遂行し、円滑に事業を進めることができたと思う。県では難しいこと、団体では難しいことをそれぞれがカバーすることができる点で、協働という手法は有効と考える。	
5 社会的認知の獲得		
(1)	取り組んでいる事業や成果について社会に知らせましたか。	はい・ <input checked="" type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、具体的に何を行いどんな反応があったか（無かったのか）を記入してください。	
(3)	今後に向けた課題を記入してください。 来年度が最終年度となるため、協力団の選定に適切に取り組む必要がある。	
6 新たなネットワークの獲得		
(1)	この事業を実施する上で新たなネットワークをつくる（広げる）必要性がありましたか。	はい・ <input checked="" type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）努力を団体と共にしましたか。	はい・ <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(3)	(2)で「はい」を選んだ場合、どんな努力をしたオンかを記入してください。	
(4)	(2)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）ことができましたか。	はい・ <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(5)	(4)で「はい」を選んだ場合、具体的に関係（連携）ができた機関の名称を記入してください。	
7 行政の施策等への影響		
(1)	協働事業の実施により、県職員のボランティア団体等に対する認識や行政の施策等に影響を与えることができましたか。（協働部署にあっては、影響を与えられたかどうかを回答してください。）	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、具体的に変化や影響があったと思われることがあれば記入してください。 アレルギーに関する知識を園児に伝えることの難しさや大切さを考える契機となっている。	
8 費用対効果		
(1)	事業の効果から見て、要したコストは適切だと思いましたか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ・どちらともいえない
(2)	(1)で「いいえ」を選んだ場合、その理由と、今後の対応策を記入してください。	